京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校
2021 年
3 月 1 日発行
第 227 号

聖母の小さな学校 通信

１年のまとめをしよう！

梅の香がふく郁と漂い、春の訪れを感ずる頃となりました。平素は聖母の小さな学校の教育に格別のご理解とご協力をいただき、深く感謝いたします。

コロナ禍での１年のまとめの時期に入りました。本校も感染防止策を取りながらの教育活動で、止むを得ず中止した学習もありました。特に、舞鶴市の協力の下で実施している中国語教室は、講師である国際交流員の派遣がかなわず、できませんでした。また、サマーキャンプのカヌー教室も中止になりました。そのような中、本校の教育の諮問機関とも言える「学校とフリースクールとの連携懇話会＝運営協議会」において、教育内容、また、行事等の実施についても多角的に深く検討を重ね、生徒にとって最善の教育の形が示されたことは、本校の大きな力になり、この状況下での教育の継続につながり、生徒の成長を促すことができました。これは、不登校という困難な状況にある生徒を学校教育、また、社会の中で置き去りにせず、光をあてていく一つのモデルです。また、本校が京都府教育委員会、舞鶴市教育委員会と共に取り組んでいる「フリースクールでの社会的自立に向かう学びを原籍校で評価・評定する」ことについても、平成 29 年に施行された国の法律「教育の機会確保法」に則ったことであり、評価を受けた生徒は、原籍校の丁寧な受け入れを実感し、社会的自立に向かう力を得ております。

これら二つのことは、誰も置き去りにされない教育＝SDG'S の視点からも大切な事実であると思います。このコロナ禍にあって、数の問題ではないけれど、不登校が増え、ひきこもってしまう人が益々引きこもらざるを得ないような状況を、意識せずに作り出しているのが現代社会のように見えます。困った状況にある若者が、更に困ることのないようにと願います。

さて、生徒たちは、10 月のスポーツフェスタのテーマ「現実の自分から逃げることは大丈夫と自分に思い込ませていた。けど、逃げ切れないと分かった。焦った。どうしていいか分からず、苦しかった。でも、自分はやっていく！」を意識して、今まで学んできました。聖母に来て、逃げ切れないと分かって、苦しいけれど、学んでいこうと心に決めての出発でした。今でも、自分の現実を見ることは難しく、受け入れることは感情的にも辛いようです。様々な学習を通して自分を見つめる体験を重ね、受け入れる方法を子どもなりに知ろうとしています。「自分はやっていく！」という思いを持っているからこそできることでしょう。

中学生は原籍校への登校を練習しています。府立高校通信制に籍を置く生徒は、毎週のスクーリングを休まず、単位を取り切りました。今後も自分の小さな課題を一つひとつ意識しながら成長できるよう、教育にあたりたいと思います。

保護者も生徒もしっかりまとめをする月にしたいと思います。保護者は聖母との面談を取られるようお願いいたします。また、本校の保護者でなくても面談は取れますので、先生方もお勧めください。

今月もよろしくお願いいたします。

＜今月の主な行事＞

3 日（水）体育
5 日（金）・12 日（金）ギター教室
7 日（日）学年末保護者会
10 日（水）数学
11 日（木）華道教室
20 日（土）令和 2 年度進級式
23 日（火）修学旅行（奈良）
25 日（木）令和 2 年度修了式